

答 県道からの眺望確保と、県道北側で史跡に最も近いところにも駐車場を確保し公園のメインエントランスとしての整備を図るため、用地を拡大する。

一般質問
竹田 きよし
(いづれの派にも所属しない議員)

**少子化に対応した
活 力 あ る
ま ち ・ 学 校 づ くり**

問 40年かけて公共施設を見直す中で、学校関係の施設が4割を占めているが、学校関係の施設の見直しをどのように取り組むのか。過去に頓挫した校区の変更以上のことをやらなければならぬが。

答 ピークから比較すると児童生徒数は半減しており、今後も減少傾向にあるが、ほぼ横ばいの学校もあり、学校間に大きな差が生じている。檀原市公共施設等総合管理計画を策定し、市が所有する公共施設の延べ床面積を、今後40年間で20%の削減を目標に取り組んでいく。今後、教育施設再配置検討審議会を立ち上

げ、学校施設の適正規模と適正配置を、中長期的な児童生徒数の予測をもとに、地域の実情に合わせて市の考えも伝えながら、検討していく予定である。学校は単に勉強を教えるだけでなく、集団の中で多様な考えに触れる等して、一人一人の資質や能力を伸ばす場でもあり、一定の児童生徒数の集団規模が望ましいとされており、今回はこの点も考慮しながら検討したい。

問 魅力ある学校の一例として小中一貫制があるが、本市の考えは。

答 学校施設の適正規模と適正配置を検討する中で、小中一貫教育、コミュニティスクールなど、新しい学校のあり方の検討、また、地域の持つ教育力や資源を生かした学習活動や郷土学習など特色ある学校づくりを進め、それぞれの学校が活性化し、魅力ある学校となるよう取り組みたい。検討する上で、廃校になった場合など、その後の施設の活用なども、教育委員会だけでなく、関係部課とも連携を取り、先例各市の事例も研究し、市全体で考えていく。

問 白檀町では、平成7年か

ら現在までに人口が3割減少しており、まちを活性化させるためにも、魅力ある、次世代につながる教育施設は人口の増加に繋がるものにすべきと考えるが。

答 人口減少に歯どめをかけ、学校に活力を取り戻すことは、極めて重要な課題であると認識している。そのため、平成28年3月に檀原市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した。4つの基本目標を定め、それぞれの基本的な方向に向かって具体的な施策を展開する計画となっており、効果的な施策から順次取り組んでいく。少子高齢化の進行や空き家などの増加は、地域の将来や活力に直結する大きな課題という認識のもと、地域の

方々や、県やUR等の施設管理者等の各種団体とも連携し、総合戦略の方針に沿った施策の展開を模索したい。

問 教育の問題および教育の一貫制の現状と課題は。

答 学校は、教育機関だけでなく、地域の住民・福祉活動の単位であり、拠点でもある。また、災害時の避難所等の機能もある。今後、教育施設の再配置は、市全体で調整を図

り、高齢者の増加も十分踏まえた中で提案したい。コミュニティスクールは、地域とともにある学校という大変大きな意義がある。小中一貫教育は、これからの教育の1つの方向性を示すものであるが、十分議論をしたい。例えば、小学生の場合は、6年生になればリーダースhipを発揮してもらうことで、責任感やプライド等も体験させてあげたい。一方、小中学校の連携は、これから大いにやっていかなければならない。予算や免許の問題はあるが、中学校教諭が小学校高学年の特定の科目の授業に向く等、型どおりではなく、魅力的な提案もあわせてほしい。

問 教育についての市長の考えは。

答 我々の地域のことをしっかりと伝えていく郷土教育が一番大事だと思う。市外で働く市民の若い人たちが、我がまちのことをどれだけ自慢できるのかが大事であり、始まりの地が我々の地域であることに誇りを持ち、出た外で表現してほしい。我々が我々の地域のことをどれだけ誇りに思っているのかをベースに考

え、藤原京や今井町等、子どもたちに伝えていく必要がある。それを伝えていけるポテンシャルのある地域だと思うので、教育に関して、さまざまなどころから発信したい。



**高齢者の運転免許
自主返納における
警察・行政との連携**

※複数の議員から、高齢者の運転免許自主返納に関する質問があったため、要望として、「高齢者が自主返納しやすいように、行政と他の機関が一体となり取り組んでほしい」との発言がありました。

